



7 研修第 17 号

(令和 7 年 12 月)

発行: 宇治市乳幼児教育・保育支援センター

アドレス: nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp



乳幼児教育・保育推進事業 通信 ～令和 7 年度 乳幼児教育・保育協働研修～



令和 7 年 11 月 20 日(木) 第 17 回研修会(保幼小連携)を開催しました。

29 名の先生方と一緒に学び合いました。

(幼稚園 3 名・認定こども園 10 名・保育園 1 名 小学校教務主任 15 名)



テーマ 「スタートカリキュラムの改善 II」

1. グループワーク・発表

自校で作成した令和 8 年度のスタートカリキュラムを持ち寄り、架け橋ブロックを基本としたグループで意見交流

2. 指導助言

京都府山城教育局 指導主事 幾馬 礼奈先生





令和 8 年度スタートカリキュラム案をもとに意見交流
をした中で、感じたことを一つ記載してください。

【就学前施設より】

- ・45 分授業を 2 つに分けるなど、子どもの負担がないように考えてくださっているのだなと思った。
- ・小学校入学にあたり、不安が大きいので不安をのぞいてあげることが大事。やったことがある、見たことがあることが不安を取り除くことになると思うので、小学校との情報交換は必要だと感じた。
- ・小学校の先生方が『幼児期の子どもを知ろう』『安心につながることは何か』と考えをめぐらせてくださっていることがわかった。園での取組を架け橋ブロックで伝え、小学校を理解することも大切だと感じた。

【小学校より】

- ・園の先生の想いをしっかり聞かせていただいた。「らしさ」を大切にされている点が心に残りました。
- ・一人ひとりが安心感を持って 4 月を過ごせる工夫づくり。
- ・来年度のスタートカリキュラムで、朝と帰りにゆとりの時間を取ったのでそこでできそうな活動を教えてもらった。
- ・就学前の子どもの実態をしっかり把握することが大切だと思った。ぜひ保育園、幼稚園に足を運ぶ機会を取り、見に行きたい。



講師の先生のお話の中で
心に残ったことを一つ記載してください。

【就学前施設より】

- ・安心がやる気につながり、自立していくということからまずは小学校を安心できる場にしていくために連携が大切だということ。
- ・中 3 での姿をイメージし、育てたい姿を幼小中と同じ思いを持てていることが理想的である。
- ・スタートカリキュラムを実施することで子どもたちがより安心して学校生活に入っていけることが心に残った。
- ・子どもの興味や関心を育むことが自ら探求する学びにつながっていくということ。

【小学校より】

- ・教え込むのではなく、子どもたちの興味を引き出して活動を行うという視点が大事だと思った。
- ・1 年生に限らず、どの学年、授業でも自己選択する機会を作る工夫が授業改善にもつながると思った。
- ・接続の進め方のイメージをフェーズ 1 から知れたので見通しが持てました。
- ・自己決定をすることが意欲につながる。

就学前施設より

保護者にも保育園側から小学校に向けて伝えていけることがあれば意識できるよう伝えていきたい。

思い切りその子「らしさ」を大切にしていく。

子ども自身が選ぶ、決定できる経験をたくさんできるようにしていきたい。

その子らしさを大切に好きなことや夢中になる遊びにじっくりと取り組める環境を作っていきたい。

「言葉のかけ方一つで子どもの安心や自信につながるということ」これは小学校の先生方へのメッセージとして話して下さってはいましたが、保育の中でもとても大切なことであるので強く意識していきたい。

保育や授業で活かしたいこと



交流を深めていきたい
(色々な場での関わり)

小学校より

子どもたちの「できる」を大切に、実態に合わせた教育がしたい。

「自己決定」を意識して場面を作っていく。

45分で一区切りではなく、子どもの実態に合わせてモジュール的な時間で活動させていきたい。

安心感を持たせる授業づくり、環境づくり

安心感のある授業は日頃の積み重ねと就学前からの連続性だと感じた。

保育での手遊び歌をスタートカリキュラム中に実施し、安心につなげる。